

仲間からの便り

アジアで貴重な異文化体験をしたかめのりコミュニティの仲間から、近況報告、留学して、今感じることやこれから留学する人へのメッセージが届きました。

高校生短期交流プログラムに参加したみなさん

竹中 春菜 (2008年 韓国)

この4月より、地元京都の金融機関に勤め始め、1日も早く一人前に仕事ができるよう一生懸命取り組んでいます。

韓国でお世話になったホストファミリーとは、現在も連絡を取り合っています。大学生活最後の夏休みには再び訪問し、1週間滞在させていただきました。今後もホストファミリーとは交流を続けて、語学の勉強も続けていきたいと考えています。

私が留学してから、6年が経ちますが、留学した1カ月の経験は、強く記憶に残っています。それほど、貴重で濃い1カ月を過ごしていたのだと今改めて感じています。これから、留学する方には、滞在中は、貴重な経験をさせていただいているという感謝の気持ちを忘れずに、可能な限りアクティブに動き、現地の人と交流していただきたいと思っています。

檀 和佐 (2008年 韓国)

立命館大学国際関係学部4年生となり、現在は卒業論文の執筆に励んでいます。第一志望の会社から無事内定をいただき、新生活に胸を膨らませながら、残りの学生生活を有意義に過ごせたらと考えています。

韓国留学を振り返り思うことは、たくさんのことを学べたとても貴重な4週間だったということです。ホストファミリーや友人に恵まれて毎日が楽しくて、一生忘れることのできない大切な思い出になりました。

もちろん決して楽しい思い出ばかりでなく、苦い思い出もありました。ただ、その挫折経験によって自分自身が大きく成長できた気がします。「あの時あすれば良かったのに…」と後悔したり、「あの時のあの行動は正しかったのだろうか…」と自問自答したり、「今の私ならきっとこうするだろうに…」と考えたり、やり直せるものならやり直してみたいものです。しかし、自分にとって不完全だからこそ、その経験が大きな意味を持つのではないかと感じています。次に進むため、前に進むために大事なことで、これからの自分はどうかあるべきかということ学ぶことができました。

山縣 梨華子 (2010年 中国)

昨年から中国廈門(Xiamen)大学に留学しています。留学生活も残すところ2ヶ月半となりました。毎日がとても新鮮で刺激的でありながらも、こちらの人や気候に恵まれたお陰で、穏やかな心持ちで日々を過ごすことができている。高校3年の時、北京で1ヵ月間ホームステイした経験が活き、カルチャーショックのようなものはほとんどなく、出会う人たちは、人なつこく素直な人が多いので、孤独感を感じることも特にありません。

こちらで生活していると、中国人学生や他国から来た留学生が、日本・日本人に対してどのような印象を持っているのかがよくわかります。「日本人は礼儀正しく、思いやりがある」といった好ましい印象を持つ人も多い一方、日本への留学経験のある学生や日本人と関わりの深い人からは、「日本人は冷たい」という言葉を耳



中国で最も美しいキャンパスと称される廈門大学にて

にすることがあります。やはり、出会う人によってその国全体に対する印象が大きく変わると私は考えているので、日本人の負のイメージを払拭するような行動を心がけ、礼儀正しさなど良い側面は中国においても日本人らしさを忘れないようにしています。最終的には国籍・文化の枠にとらわれず、一人の人間としてより良い行動が取れるようになりたいと思っています。



大学では東アジア研究ゼミに参加し、中国の教育格差問題について研究しています。

これから留学される皆さんには、自分の目で見たと、自分の耳で聞いたことを信じる強さと勇気を持って欲しいと思います。特に韓国と中国に関しては、現在様々な外交問題によって日本人の対韓、対中観はとても厳しくなっています。しかし、韓国と中国へ留学した私が言うことは、自分で経験したことが最も確かであるということです。留学し、現地の方とともに暮らした人にしか見えないものがきっとあって、それこそが、その国の本当の姿なのだと思います。テレビを通してその国を知ると、実際にその国で生活した人とは、情報量も情報の質にも大きな開きがあるはずです。そのギャップを埋めていくことが、まさに留学を終えてからの私たちの仕事なのではないかと思っています。



韓国でホストファミリーと一緒に

加藤 理恵 (2011年 韓国)

高校1年生の時に行った韓国での体験や出会った友だちなどを通して、日韓関係にますます興味を持ち、東京外国語大学国際社会学部東アジア地域を専攻しています。春休みを利用して、一人で韓国を訪問し、ホストファミリーを訪ね、足をのびして慶州まで観光に行き、大学入学前に良い刺激を受ける事ができました。

高校生という一番いろいろなものを受け取ることができる時にプログラムに参加し、それがきっかけで学びたいことができ進路を決めました。貴重な機会を与えてくださったかめのり財団やYFUの方には感謝してもしきれません。ありがとうございます。

高校生短期交換留学プログラムに参加したみなさん

淵上 碧 (2011年 中国)

この春から早稲田大学国際教養学部に進学しました。昨年の7月にアメリカ長期留学から帰国し、受験準備期間が短かったにもかかわらず、このような結果になったのは留学で学んだあきらめない力が発揮されたのだと思います。さらに、大学2年から1年間、留学することになるのでこの1年はその準備をしていきたいです。授業はすべて英語なので、不安もたくさんありますが、頑張ります。大学には多くの中国人留学生がいて私が中国へ行った時の話をすると一瞬で仲良くなれます。国際交流には、相手の国を知っていることが大前提です。留学する前は必ず事前学習をしっかりとっていくことが大切だと思います。

福田 佳奈子 (2012年 中国)

私は大学に進学し、経営学部所属しています。現在は、経営分野に限らずあらゆる学問を学んでおり、とても充実した生活を送っています。また、将来は旅行会社に勤めたいと考えているので、観光客が増えている南米において多く使われているスペイン語を第二外国語として選択しました。

私が留学したのはもう二年も前ですが、いまでも留学をして本当に良かったと思っています。留学はその国について知ることができ、言語が話せるようになるだけではなく、異国の地で家族から離れ、異なる文化の中に身を置くことで人間として成長し、さらなる好奇心と自信がつかえます。いま大学生となり留学がより身近になっていますが心配することなどなく、むしろどんどん海外へ出ていきたいです。留学が人生の糧になることは間違いありません。機会があるならばぜひ逃さずに挑戦してほしいと思います。

酒匂 美桜 (2013年 韓国)

高校の頃から将来は国際的に活躍でき、また災害時にも対応できる医療従事者を目指すようになりました。4月に順天堂大学医療看護学部に入学しました。

学年が上がるにつれて、忙しくなり時間がとれなくなります。留学を決意する時期は、早ければ早い程良いと思います。英語だけにとどまらず、世界の国の数だけ言語があるということ意識して、挑戦することも大切だと思います。

石田 彩 (2012年 韓国)

私は、今年の4月に社会人の仲間入りをし、上司や先輩の仕事を研究しながら、少しずつ学んでいます。そして今でも、ハングルの勉強は継続しています。初任給で、ホストファミリーになにかプレゼントを送りたいと考えています。

留学での経験は、すべて私の財産です。これから留学される方は、期待や不安など複雑な気持ちだと思いますが、消極的にならず、積極的に行動することで、とても良い留学になると思います。そして、留学でお世話になった人々とは、ずっとつながり続けてください。

OGの活躍が
新聞で紹介されました!

平野明理さん(2009年、タイに長期留学)は、立命館アジア太平洋大学3年生。4月の読売新聞の「大学の實力 現場を歩く 学生寮」欄で、同大学学生寮「APハウス」のレジデント・アシスタント(RA)として活躍の様子が掲載されました。RAとは、一緒に寮に住みながら、24時間体制で寮生のサポートにあたる学生のこと。平野さんは、もう一人のRAと共に、約50人の学生を担当し、学業を含めた相談に乗り、ゴミの分別が正しく行われているかなど生活面でも支援しているそうです。寮生を手厚くサポートするRAは憧れの存在だったという平野さんの今後のますますの活躍を期待しています。

高校生交換留学プログラム(長期)に参加したみなさん

宮原 大樹 (2007年 マレーシア)

留学したことによって学ぶことの大切さを知り、AO入試で、立命館アジア太平洋大学に入学しました。大学では英語を使い留学生とともに生活し外国人の割合の多いサークルの代表などをしていました。現在、就職して1年目で、ベンチャー広告業に携わっています。留学で培った広い視野を持ち、偏見を持たない私は、チャンスを逃さない行動力でチャレンジし続けるつもりです。個人の活動としては、小学校の学童保育で海外に興味を持ってもらうクラスを持ってみたいのです。

他人ができない体験、理解が難しい人とのコ

ミュニケーション、若いうちに壁にぶつかること、広い視野をもつこと、海外を見ることで、日本の抱えている問題を知り、悩むこと。留学を体験しないとわからないことはたくさんあります。逆に知らない方がよかったのではと思うことも多くあります。しかし、人間、自分の行動範囲が視野につながります。若くて日本の常識がふる鎗のように根付く前に留学することはより有意義な体験になると思います。郷に入れば郷に従え。1年くらい日本人ではなく留学先の色に染まって、日本に帰って来てからまた一つの壁を乗り越えることが大事です。

光田 結 (2008年 中国)

昨秋から国立台湾大学に留学しています。大学卒業後の進路として、最初は大学院進学も考えましたが、台湾で知り合った方のアドバイスにより就職活動を留学の合間を縫って始めました。先般、無事、総合電機メーカーから内々定をいただきました。

私は留学そのものからいろいろなことを学びましたが、一方で留学自体がスタートにもなったと感じています。中国で模倣品に興味を持ち、法学部に進学、勉強を進める中で国際的

な問題に興味を持って、二度目の留学を志し、知財や語学といった自分の強みを活かせる会社に就職したいという一連の流れを面接でも高く評価していただきました。留学することには、不安や困難も多くあると思いますが、一つの決断や十代の一年間がその後の人生の可能性を広げ、豊かなものにしていくかもしれないということを忘れないでほしいと思います。

社会に出たら、留学で得た強さと根性で頑張って成長していきたいです。

福伊 永花 (2008年 マレーシア)

東京大学法学部4年生になりました。来年3月に学部の卒業を迎えるため、大学生としての最後の一年を爽り多いものにすべく、学業に一層力を入れ、また合気道部でも最後の演武会に向けて稽古に励んでいます。

昨年、5年ぶりに留学中お世話になったホストファミリーのもとへ帰りました。5年も経った今でも私を娘として受け入れてくれ、3日間の短い滞在でしたが、とても幸せな時間を過ごしました。初めて会った時は、言葉もなかなかうまく話せず、昨日まで他人だったホストファミリーと「家族」になれるか不安でしたが、今でも私にとってかけがえのない家族と言える程にまで密で深いつながりを留学中に残せたことを改めて実感しました。最後の日は、やはり日本へ旅立つのがつらく、涙がとまりませんでした。また帰りたと思っています。



マレーシアで、留学生仲間と5年ぶりに再会

今泉 美里 (2011年 タイ)

留学先のタイから帰国してからも、タイのことをもっと知りたい、住んでいたいと思い、タイの大学を受験し、8月からタマサート大学政治学部に進学が決まりました。周りの友達が日本の大学に合格していく中で、タイの大学に挑戦することは、不安でしたが、それよりもタイに行きたいという気持ちが大きかったです。授業は、すべて英語ですが、勉学の傍らタイ語の勉強もしたいと考えています。大学の学びを、日本とタイの関係をより良く、より深める事に役立てたいと思います。

留学して、今思うことは、留学した人生と留学しなかった人生を考えると私の人生は全く違ったものになっていただろうという事です。留学したことで、物事の考え方もやりたい事も、いろんな事がよい方向に変えられました。私は母がタイ人で、留学する前もタイのことをわかっているような気になっていましたが、留学して、実際にタイに住んでみて自分は全くこの国のことを知らなかったと痛感しましたし、今でもまだまだ知らない事、知りたい事が沢山あり、そしてタイの魅力を他の人々に伝えたいと思っています。これから留学する人へは、留学中はもちろん楽しいことばかりではないし、辛い事や大変な思いをすることもありますが、でもそうやって体験したことの全てが自分の誇り



昨夏、大学見学を兼ね、タイを再訪

住吉 将治 (2009年 フィリピン)

現在、同志社大学グローバルコミュニケーション学部中国語コースの3年生です。2013年9月から今年の7月まで中国上海にある復旦(Fudan)大学に留学しています。留学生の寮に住み、寮では英語を、大学や町では、中国語を話すという生活をしています。中国と日本の間には、様々な問題がありますが、中国の内側から理解を深めていきたいと考えています。

高校生で留学した時は、ホストファミリーがいました。大学で寮生活をしていると、どれほどホストファミリーにはお世話になっていたのかを痛感するようになりました。今もホストファミリーとは、連絡を取り合っていて、外国にも家族がいるのは、とても恵まれたことだと思います。

須藤 光香 (2009年 マレーシア)

現在、就職活動中です。活動をしていて感じるのは、留学をすることが目標ではなく、大切なのは留学中に何を目的にし、どんな体験をし、そこで何かを得るということです。もちろん、留学は目標など深く考えていなくても得られることはあります。しかし、具体的に何をしたいのか、何のためにしているのかを考えて行動すると、より一層有意義な留学になるのではないのでしょうか。また、アジアに留学することは留学の主要な派遣先とはまた違った体験ができます。この体験は一生の宝となると思うので自ら進んで参加するようにした方が良いと思います。留学中には文化の違いや環境の変化で精神的に辛い時があるかもしれませんが、しかし、決まった期間が終われば必ず日本に帰らなくてはならないのでその短い期間でたくさんのことを吸収してきましょう。

賀来 琳 (2010年 中国)

留学後、映画製作の専門学校へ進学しましたが、もっとフランスの映画評論について勉強したいと思い、4月から慶應義塾大学文学部へ進みました。これから4年間、語学を中心に興味あることを精一杯学び、映画芸術を通じて人の人生を豊かにしていけるような仕事をしたいと思っています。

留学はそれを体験している時よりもその後が重要だと感じています。高校で周囲の心配を振り切って中国へ留学に行った事が、そこで得た苦しみや達成感が私を受験に踏ん切らせたと思います。周りの人がどう思っても結局、自分が出来る事をするしかなく、そうやってでしか自分が得たものを社会に還元できないということはこの留学後2年間で学びました。努力することを教えてくれたのは留学ですが、努力を実行したのは、帰国後から今までで、それはこれからも続いていきます。

となり、人生の宝物になります。どうか恐れずに、できるだけたくさんの事に挑戦してください。後でやりたいと思っても、できないこともあります。“今”がまさにその時です。悔いのないよう楽しんでください。

中本 愛子 (2012年 韓国)

高校を選ぶ時から進学したいと考えていた国際基督教大学に合格し、大学生として新しい生活がスタートしました。大学では韓国語はもちろん朝鮮史の授業を2年生でとり、日本と韓国の関係についてより深く勉強していきたいと思っています。

私は高校2年生の時に留学し、日本の友達との1年間を過ごせなかった分、他の高校生ができない貴重な体験ができました。日本以外の国に友達がいるということはとても特別

ですし、日本語以外の言語でコミュニケーションをとることはとても楽しいです。私が高校で留学したということはこれからも私にとって大きな意味を持っていくと思います。留学に行く前は誰でも不安ですが、自分が努力をすればほとんどの人は、温かく受け入れてくれます。何事も経験だとプラスに考えて、1年間楽しんでほしいです。“やらなかった”後悔より“やった”後悔!!

中学生交流プログラムに参加したみなさん

吉川 綾美 (2010年 韓国)

韓国へ行ってから、4年が経ち、高校2年生になりました。学校では、卓球部と茶道部に所属し、とても楽しく充実した日々を送っています。これから、勉強や部活もさらに大変になると思いますが、将来のことをしっかり考え行動する一年にしたいと考えています。

韓国では、私の片言の英語や韓国語を一生懸命最後まで韓国の人は聞いてくれ、私は外国の人と話し、交流する時のワクワクする感じがとても好きになりました。国境なく親しくすることは本当に素敵な事だと思います。自分からいろいろ話しかけたことで韓国の人やホストファミリーに心を開くことができ、また、

去年の夏、私の家ではホストファミリーとしてアメリカの留学生を受け入れるなど、新しい事に自分からチャレンジできるようになりました。交流は、緊張もしますが、積極的に話しかければ、素敵な関係を築くことができると思います。



川上 浩市 (2010年 韓国)

今年の4月より東京藝術大学音楽学部邦楽科の1年生になりました。8才から三味線を始め、大学ではさらに純邦楽を学び、将来、日本の文化を世界に紹介する仕事ができる芸術家になりたいと思っています。



日本の文化を世界へ紹介！

渡邊 駿介 (2013年 ベトナム)

今年、僕は高校に入学しました。高校でもサッカー部に入り、練習はきつく、毎日家に帰る時間も遅いのですが、勉強などの両立ができるよう、頑張っています。

ベトナムに行ってから、半年以上が過ぎましたが、ベトナムの人や一緒に行った派遣生とは、今も連絡を取り合っています。Facebookでベトナムの生徒がアップロードした写真などを見て、いろいろな発見があり楽しいです。

僕はベトナムに行って、アジアに行くことの大切さを学びました。現地では、多くの人から、「我々は日本(人)にとっても感謝している」「ベトナムにとって日本はありがたい存在だ」と言われました。道路を走るバイクはほとんどが日本製で、日本企業が二つの大都市をつなぐトンネルを作り、多大なる支援金を日本が送っているなど、ベトナムにとって日本はとても身近な存在です。ベトナムとの国交が40年以上続いていることなどから日本にとっても身近な存在だと言えるのですが、多くの日本国民はこのことを知らないと思います。「ベトナム？どこそこ？」「何それアフリカにあるの？」などと僕は



ベトナムで出会った友だち

友達に言われました。実際、僕も行く前はこのような感じでしたが、プログラム参加後には、ベトナムを身近に感じるようになりました。

おそらく、他のアジアの国々にとって、日本は身近なのに、日本人がそう思っていない国がたくさんあると思います。助け合えなければいけない今の世界では、まず全国民がアジアと日本のことを知る必要があります、そのためにはアジアに行くことが大切なのだと感じました。

これから参加する人には、とにかく何も考えずに参加することが僕は大事だと思います。あれこれ調べてからいくと新たな発見の時の感動と驚きは生まれません。何の知識もないうまま行ったほうが、そのような感情が生まれ、とても楽しい経験になります。

田中 恵一 (2011年 マレーシア)

4月に本郷高等学校に入学しました。中高一貫生ではなく高校から入学した僕は、1年間で数学を1.8年分勉強するので、遅れないように頑張りたいです。これからは、日本の文化を見直そうと合気道をやる予定です。

プログラムに参加して感じたことは、とにかく自分の気持ちを周りに伝えることが大切だということです。失敗を恐れてモジモジしても周りの人は何も分かってくれません。積極的に挑戦するつもりで話しかけることがコミュニケーションをとるための第一歩だと思います。

松嶋 亜香里 (2012年 台湾)

和歌山県立日高高等学校に進学しました。昨年の9月には中国で国際交流の活動に参加しました。私の高校は今年で創立100周年を迎え、その記念企画として、アジア諸国から生徒を呼び、交流を図るアジアフォーラムの開催が予定されており、私は実行委員となりました。短期間でしたが2度の海外経験を生かし、実行委員として頑張りたいと思います。

藍口 玲菜 (2013年 ベトナム)

国際的な学校に行きたいと思い、国際基督教大学(ICU)高校を選びました。今、力を入れている事は英語です。今まで全く経験したことのなかった異国での交流やホームステイは、私を成長させてくれたし、海外に興味を持たせてくれました。これからも積極的に参加していきたいと考えています。

佐藤 純 (2013年 ベトナム)

これから英語検定を受けるなど、英語学習に力を注ぐとともに英語以外の外国語も学んでみたいと思っています。また、自分の学校には野球部がないので、友達と共にまずは野球同好会を夏の大きな大会までに設立できるように頑張っていこうと思います。

プログラムに参加して、自分の視野が広がりました。日常生活の中でもベトナムはこれがこうだったと思うことが多々あり、自分のためになる体験だったと思います。今、思えば事前に現地語を少しでも覚えていたら、もっとホームステイなどを楽しめたと思います。

この数々の便りは、桜が咲き、新芽が芽吹きだした4月に届きました。就職、大学や高校への進学とそれぞれの道を歩み、留学の意義を改めて見出しているみなさんの姿をとて誇りにそして嬉しく感じています。(事務局 菊地)